

8月28日、久しぶりに高尾山に登りました。とは言って猛暑のため、ケーブルカーの利用。薬王院に向けて歩き出したらカリガネソウ(雁金草)に出会いました。いきなり珍しい花に出会いラッキー。この花の姿はとでも変わっている。青紫色の花弁は5枚、花を上から覆うように長く伸びた雌しべと雄しべの有り様がとてもユニーク。10月になればカリガネ(マガン、ヒシクイなどの野鳥)が宮城や新潟の田んぼにきて冬をこす。

紅葉台



新聞

第202号

2025年

10月4日

発行人：関谷 孝

季節の便り 巣立ち雛 2025年8月

ツルやカモやツグミなどの冬鳥が北の国に帰った後、スズメやカワセミなどの留鳥やツバメなど南の国から渡って来た夏鳥達は春から夏の間の子育てをします。鳥達の子育ては、「先ず巣を作って」、「卵を産んで」、「卵を温めて」、「孵った雛に餌を運んで」、「孵化後、おおよそ10日~14日後に巣立ち」ます。

その後、「巣立ち」から2~3週間で「独り立ち」します。「巣立ち」と「独り立ち」は似ているようで全く異なります。「巣立ち」から「独り立ち」までの2~3週間は「巣立ちヒナ」が自分の力だけで生きていく訓練を親から受けるために「巣を離れる」ことです。スズメやヒヨドリなど 小型の野鳥の多くは、巣立ってから始めて飛び方やエサのとり方、敵からの逃げ方、仲間同士のつきあいなどを親鳥や若鳥から学びます。そうしてヒナは自分でちゃんと飛べるようになり、やがて一人前に成長します。「巣立ち」から「独り立ち」までの2~3週間に人が地面にいるヒナを見つけて、巣から落ちて迷子になっているか弱っていると思い、保護するケースがよく見られます。しかし、そのヒナは迷子になったり、弱ったりしているわけではありません。巣立ちしたばかりのヒナは、しばらく親鳥と一緒に暮らし、エサの取り方や飛び方などを学びながら成長していきます。ヒナがかわいそうだからといって持ち帰ることは、親元からお子さんを無理矢理引き離すことと同じです。人間が親鳥の代わりにきびしい自然の中で生きていく術(すべ)を教えることはできません。

8月になると、無事に「独り立ち」した若鳥(幼鳥)が目立つ季節です。添付の写真は左がイソヒヨドリ、右がカワセミでいずれも8月に八王子市内で撮ったものです。イソヒヨドリには未だ産毛が残っています。カワセミはやんちゃで若



僧そのもののような姿ですが、この段階になると自ら水面に飛び込んで魚をゲットできます。

** 粕谷和夫 kasuya.kazu0688@gmail.com 八王子市天神町3-6 (090-6125-5769) ブログ「鳥見歩る記」
<http://kk-kasuya.cocolog-nifty.com/blog/八王子・日野カワセミ会> <http://kawasemi.main.jp/八王子里山クラブ> 稲の不耕起栽培実践中

粕谷和夫の観察日記



沖縄ヤンバル在住の鳥の専門家から7月、「自宅裏山で聞き慣れない声があるので探したら、何とフィリピンオナガバトの来訪でした。」という情報と写真を送っていただきました。8月7日まで滞在してくれたとのこと、「フィリピンから台湾に分布するオナガバトのようですが、日本では2006年に与那国島で見た人が居るようですが、きちんと発表してないので記録になってないという超希少で綺麗なハトです。」とのコメント有り。送って頂いた本人から転送許可を得たのでお知らせします。このような話題に接すると一瞬暑さを忘れます。



自宅近くの天神公園の花壇の世話をしています。ヒマワリがようやく花を開いてくれました。連日の猛暑と水不足で土もカラカラの悪条件で何とかの開花です。葉の色を見て頂ければ「みずみずしさ」が全くないことがご理解いただけると思います。9月になると来年の春に向けて菜の花の種を蒔く予定です。そのためにもまとまった雨が欲しいです



8月31日、今年も陣馬山の山頂の直ぐ下でひっそりと咲くレンゲショウマの花に会うため、暑い中、超スローペースで登り、何とか再会を果たしました。レンゲショウマの周辺はシカ除けのためネットが張られていて近づくことができず、鮮明な写真は撮れませんでした。隣には黄色い花のメタカラコウも咲いていました。陣馬山の山頂は高原状になっていてススキの穂が揺れ、秋の気配の涼しい風が吹いていました。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

8月28日、久しぶりに高尾山に登りました。とは言って猛暑のため、ケーブルカーの利用。薬王院に向けて歩き出したらカリガネソウ(雁金草)に出会いました。いきなり珍しい花に出会いラッキー。この花の姿はとでも変わっている。青紫色の花弁は5枚、花を上から覆うように長く伸びた雌しべと雄しべの有り様がとてもユニーク。10月になればカリガネ(マガン、ヒシクイなどの野鳥)が宮城や新潟の田んぼにきて冬をこす。

粕谷和夫の「野鳥のお話会」お知らせ

お寺の学校 文化講座

令和7年10月18日(土) 14時～15時

講師：粕谷 和夫 先生 (八王子・日野カワセミ会 会長)

演題：「★身近な鳥を知ろう」



粕谷 和夫 (かすや かずお)先生

【プロフィール】

1939年、立川市(旧砂川村)で生まれ育つ。実家は農家で蚕・牛・ニワトリ・ガチョウ(番犬として)を飼っていた。子どもの頃は犬の虫好き少年で、毎日、近くの本にカブトムシなどを見に行くのが楽しかった。

40歳(1979年)の時に仙台市に転勤、清流広瀬川でカワセミに初めて出会い、カワセミの美しさに魅せられて日本野鳥の会に入会。その後八王子に帰り1985年に八王子・日野カワセミ会を設立し現在まで40年間会長。新型コロナの前まで読売カルチャースクール(狹窪、恵比寿)の野鳥観察講師。野鳥だけでなく野草、樹木、昆虫などの観察を楽しんでいる。「みんなで教え合うこと」を観察のモットーとしている。

【内容】

街の中の小さな広場で尾を上下に振りながら歩いている白黒の小鳥、冬庭に翼の白斑が目立つ可愛い小鳥がやって来た。気になる鳥だけ名前が分からない。私たちの周りには、さまざまな種類の野鳥がいます。これらの鳥たちは、人と同じように、食べ物を探したり、仲間と遊んだり、子育てをしたりしています。

この講座では、まず身近な野鳥の名前を覚えるコツを説明し、知っているよりも野鳥が楽しめる情報まで紹介します。野鳥のくらしと、そこにある自然に気づくこと、それがバードウォッチングの楽しみの第一歩です。

【参加費】300円

【申込】電話にてお申し込み下さい(定員50名)

〒192-0034 八王子市大谷町1019-1

観池山 大善寺

お申込み・お問合せ 042-642-0716



八王子の古刹・大善寺が開催している「お寺の学校」で粕谷が「身近な野鳥を知ろう」を担当することになりました。超初心者向けです。

大善寺は小宮公園の隣りにあり JR 八王子駅北口から浅川の浅川大橋を渡り、八王子郵便局の信号を左折して、直ぐを右折、右田病院を過ぎて小宮公園の短いトンネルをくぐるとその先にあります。徒歩約20分です。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。